



日本茶で来場者をおもてなし



島原市で茶道活動をしている山本社中と如月庵は、ジオパーク国際ユネスコ会議に参加するお客さんを日本茶でもてなしました。

「この日を迎えるため、3カ月前から準備を開始し、会場の飾り物の作成や、外国人のお客さんに日本のお土産として持って帰るのに軽く、かさばらない祝鶴の準備などを行い、当日は600人分の日本茶やお菓子を用意しました」と話す如月庵の代表 井口 千鶴子さん。そして、最後に「準備は大変でしたが、来場者に喜んでいただいたことが何よりも嬉しいです」と話しました。



- 10. 龍石海岸現地視察 11. ポスター発表 12. 子どもによる現地ガイド
- 13. 秋篠宮ご夫妻に歌を披露する大野木場小学校児童 14. 秋篠宮ご夫妻を市民が歓迎
- 15. 秋篠宮ご夫妻が砂坊みらい館をご視察
- 16. 秋篠宮ご夫妻が土石流被災家屋保存公園をご視察
- 17. 開会式

島原市内の商店街では「夜市」なども行われ、国際会議参加者や市民の人も一緒に楽しみ、多くの交流が生まれました。

閉会式では、ジオパークの防災教育への活用など、8項目からなる「島原宣言 (THE SHIMABARA DECLARATION)」(宣言の全文は市ホームページに掲載しています) が世界に向けて発信されました。また、今回初めて、ジオパークの遺産の保全と活用の中で、地質、自然だけではなく「無形」の文化遺産を保管し、保存していくことが宣言されました。

今回の国際会議では、多くの市民の皆さんに支えていただいたことで、海外のみならず、国内の参加者からも多くの感謝の言葉をいただきました。特に、子どもたちを含め数多くの場面での「おもてなしの心」が、これまでにない会議であったと高い評価を受けました。しかし、今回の国際会議開催はゴールではありません。来年、島原半島ジオパークは、世界ジオパークの再審査があります。地域が世界ジオパークの認定を喜び、上手く活用しているかどうかが再審査の中で大きな意味を持っています。今後より一層、ジオパークの推進に努めていきますので、皆様のご支援をお願いします。



- 1. アイスブレイカーパーティーで
コルス・アンジェリクスがグレゴリオ聖歌を披露
- 2. パーティー参加者をお見送り
- 3. 開会式
- 4. 甲冑を着用してのおもてなし
- 5. ゆるキャラフットサル
- 6. キッチン火山実験教室(炭酸水の爆発実験)の様子
- 7. ジオまるしえ会場でのそうめん流し
- 8. マッキーバー教授による基調講演
- 9. 子どもフォーラムで深江小学校が発表



第5回 ジオパーク国際ユネスコ会議

5月12日(土)~15日(火)

5th International UNESCO Conference on Geoparks

島原半島ジオパークで暮らす人々が一つになって、世界各地から多くの参加者をお迎えし、日本で初めての開催となった、第5回ジオパーク国際ユネスコ会議が、5月12日から15日まで島原復興アリーナをメイン会場に島原半島内で開催されました。



島原半島世界ジオパーク
キャラクター「ジオくん」

この会議には、日本を含む世界31の国と地域より、自然科学の研究者、教育の研究者、ジオパークを運営する関係者など、593人の参加登録がありました。フォーラム参加者や一般来場者を含めると約5,300人が参加しました。

大会では、パトリック・マッキーバー氏(ユネスコ生態・地球科学部地球科学課長)の基調講演を皮切りに、世界ジオパークの最新の情報や研究成果などをテーマごとに発表する「口頭発表」や「ポスターセッション」が行われました。

この会議と並行して、行政や地元高校生、中学生などによる「ポスター発表」、市民や研究者、観光関係者ガイド関係者、防災関係者などがパネリストとなり、テーマに沿って議論を交える「市民フォーラム」、子どもたちによるジオパークを通じて学習した成果を発表する「子ども発表」、島原半島ジオパークの象徴でもある火山を身近な材料で再現する「キッチン火山実験教室」などが行われました。

そして、14日には、島原半島ジオパークの見所(ジオサイト)を巡る「現地視察」が行われました。

このほか、12日、13日には、島原半島の物産展「ジオまるしえ」や、